



Management Center での Threat Defense の展開

この章の対象読者

使用可能なすべてのアプリケーションとマネージャを表示するには、[最適なアプリケーションとマネージャを見つける方法](#)を参照してください。この章の内容は、Management Center での脅威に対する防御の展開に適用されます。

この章では、脅威に対する防御の初期設定の方法と管理ネットワーク上にある Management Center へのファイアウォールの登録方法について説明します。Management Center が中央の本社にあるリモート支社での展開については、「[リモート Threat Defense による Management Center の展開](#)」を参照してください。

大規模ネットワークの一般的な導入では、複数の管理対象デバイスがネットワークセグメントにインストールされます。各デバイスは、トラフィックを制御、検査、監視、および分析して、管理 Management Center に報告します。Management Center は、サービスの管理、分析、レポートのタスクを実行できる Web インターフェイスを備えた集中管理コンソールを提供し、ローカルネットワークを保護します。

ファイアウォールについて

ハードウェアでは、Threat Defense ソフトウェアまたは ASA ソフトウェアを実行できます。Threat Defense と ASA の間で切り替えを行う際には、デバイスの再イメージ化が必要になります。現在インストールされているものとは異なるソフトウェアバージョンが必要な場合も再イメージ化が必要です。[Cisco Secure Firewall ASA and Secure Firewall Threat Defense Reimage Guide](#)を参照してください。

ファイアウォールは、Secure Firewall eXtensible オペレーティングシステム (FXOS) と呼ばれる基盤となるオペレーティングシステムを実行します。ファイアウォールは FXOS Secure Firewall Chassis Manager をサポートしていません。トラブルシューティング用として限られた CLI のみがサポートされています。詳細については、[Cisco FXOS トラブルシューティングガイド \(Firepower Threat Defense を実行している Firepower 1000/2100 および Cisco Secure Firewall 3100/4200 向け\)](#)を参照してください。

プライバシー収集ステートメント: ファイアウォールには個人識別情報は不要で、積極的に収集することはありません。ただし、ユーザー名などの設定では、個人識別情報を使用できま

す。この場合、設定作業時やSNMPの使用時に、管理者が個人識別情報を確認できる場合があります。

- はじめる前に (2 ページ)
- エンドツーエンドのタスク (2 ページ)
- ネットワーク展開の確認 (4 ページ)
- ファイアウォールのケーブル接続 (6 ページ)
- ファイアウォールの電源投入 (8 ページ)
- (任意) ソフトウェアの確認と新しいバージョンのインストール (9 ページ)
- CLI を使用した Threat Defense 初期設定の実行の完了, on page 11
- Management Center へのログイン (15 ページ)
- Management Center のライセンスの取得 (15 ページ)
- Management Center への Threat Defense の登録 (17 ページ)
- 基本的なセキュリティポリシーの設定 (21 ページ)
- Threat Defense および FXOS CLI へのアクセス (37 ページ)
- ファイアウォールの電源の切断 (38 ページ)
- 次のステップ, on page 40

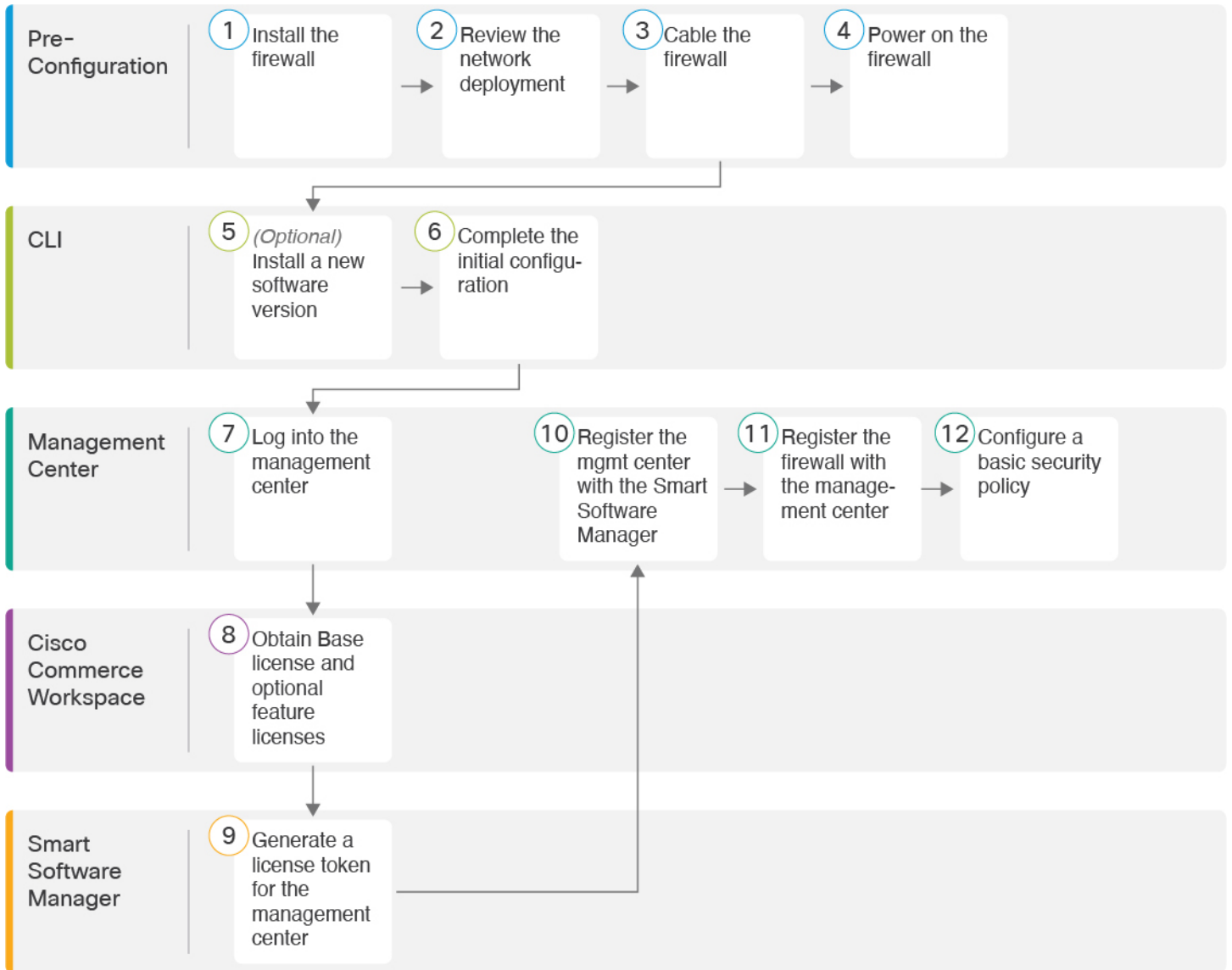
はじめる前に

Management Center の初期設定を展開して実行します。使用モデルのスタートアップガイドを参照してください。

エンドツーエンドのタスク

Management Center を使用して Threat Defense を展開するには、次のタスクを参照してください。

図 1: エンドツーエンドのタスク



①	事前設定	ファイアウォールをインストールします。ハードウェア設置ガイドを参照してください。
②	事前設定	ネットワーク展開の確認 (4 ページ)。
③	事前設定	ファイアウォールのケーブル接続 (6 ページ)。
④	事前設定	ファイアウォールの電源投入 (8 ページ)。
⑤	CLI	(任意) ソフトウェアの確認と新しいバージョンのインストール (9 ページ)。

⑥	CLI	CLI を使用した Threat Defense 初期設定の実行の完了 (11 ページ)。
⑦	Management Center	Management Centerへのログイン (15 ページ)。
⑧	Cisco Commerce Workspace	基本ライセンスとオプションの機能ライセンスを購入します (「Management Center のライセンスの取得 (15 ページ)」)。
⑨	Smart Software Manager	Management Center のライセンストークンを生成します (「Management Center のライセンスの取得 (15 ページ)」)。
⑩	Management Center	スマートライセンシングサーバーに Management Center を登録します (「Management Center のライセンスの取得 (15 ページ)」)。
⑪	Management Center	Management Center への Threat Defense の登録 (17 ページ)。
⑫	Management Center	基本的なセキュリティポリシーの設定 (21 ページ)。

ネットワーク展開の確認

管理インターフェイス

Management Center は管理インターフェイス上の Threat Defense と通信します。

専用の管理インターフェイスは、独自のネットワーク設定を持つ特別なインターフェイスです。

- デフォルトでは、Management 1/1 インターフェイスは有効になっていて、DHCP クライアントとして設定されています。ネットワークに DHCP サーバーが含まれていない場合は、コンソールポートで初期設定時に静的 IP アドレスを使用するように管理インターフェイスを設定できます。
- ライセンシングと更新を行うには、Threat Defense と Management Center の両方に管理インターフェイスからのインターネットアクセスが必要です。



(注) 管理接続は、それ自身とデバイス間の安全な TLS-1.3 暗号化通信チャネルです。セキュリティ上の理由から、サイト間 VPN などの追加の暗号化トンネル経由でこのトラフィックを実行する必要はありません。たとえば、VPN がダウンすると、管理接続が失われるため、シンプルな管理パスをお勧めします。

データ インターフェイス

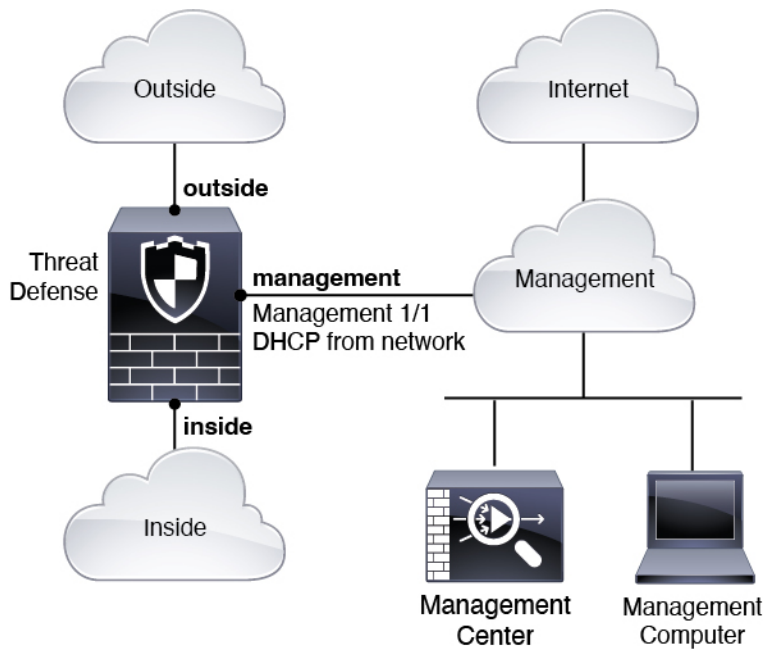
Threat Defense を Management Center に接続した後は、他のインターフェイスを設定できます。

一般的な個別の管理ネットワーク展開

次の図に、ファイアウォールの一般的なネットワーク展開を示します。

- Threat Defense、Management Center、および管理コンピュータは管理ネットワークに接続しています
- 管理ネットワークには、ライセンスと更新のためのインターネットへのパスがあります。

図 2: 個別の管理ネットワーク



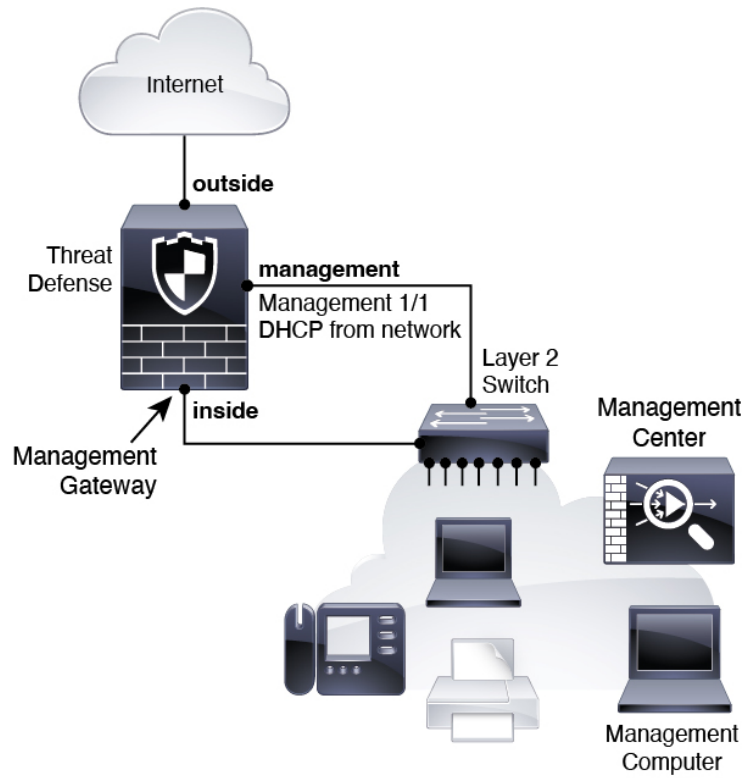
一般的なエッジネットワーク展開

次の図に、ファイアウォールの一般的なネットワーク展開を示します。

- 内部インターフェイスは、管理および Management Center のインターネットゲートウェイとして機能します。
- レイヤ 2 スイッチを介して、Management 1/1 を内部インターフェイスに接続しています。
- Management Center および管理コンピュータをスイッチとに接続しています。

管理インターフェイスには Threat Defense 上の他のインターフェイスとは別のルーティングがあるため、このような直接接続が許可されます。

図 3: エッジネットワークの展開



ファイアウォールのケーブル接続

Cisco Secure Firewall 4200 で推奨シナリオのいずれかに相当するケーブル接続を行うには、次の手順を参照してください。



(注) その他のトポロジも使用可能で、基本的な論理ネットワーク接続、ポート、アドレッシング、構成の要件によって導入方法が異なります。

始める前に

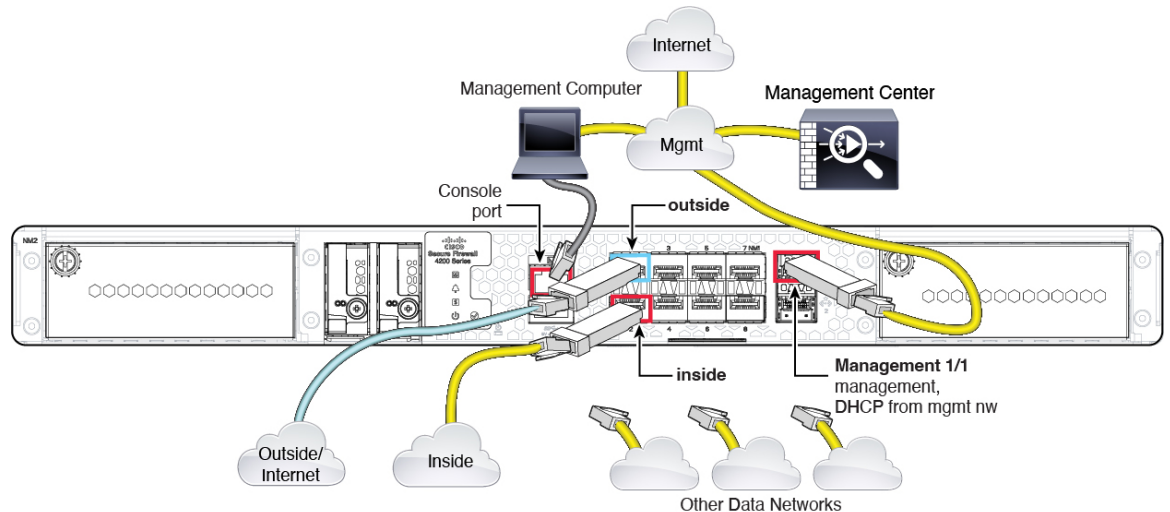
- 管理およびデータ インターフェイス ポートに SFP を取り付けます。組み込みポートは、SFP モジュールを必要とする 1/10/25 Gb SFP ポートです。
- コンソールケーブルを入手します。デフォルトではファイアウォールにコンソールケーブルが付属していないため、サードパーティの USB-to-RJ-45 シリアルケーブルなどを購入する必要があります。

手順

ステップ1 シャーシを取り付けます。 [ハードウェア設置ガイド](#)を参照してください。

ステップ2 別の管理ネットワーク用のケーブル配線：

図 4: 個別の管理ネットワークのケーブル配線



a) 次のように管理ネットワークにケーブルを配線します。

- Management 1/1 インターフェイス

Management Center に専用のイベントインターフェイスがある場合は、Management 1/2 インターフェイスを別のイベントインターフェイスとして使用できます。詳細については、Management Center の管理およびデバイス設定ガイドを参照してください。

- Secure Firewall Management Center
- 管理コンピュータ

b) 管理コンピュータをコンソールポートに接続します。管理インターフェイスへの SSH を使用しない場合は、コンソールポートを使用して初期設定のために CLI にアクセスする必要があります。

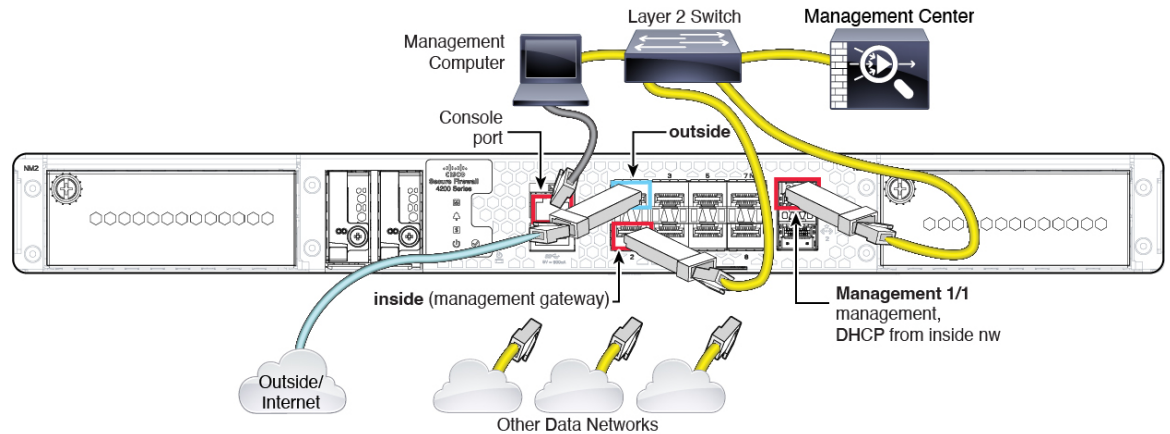
c) 内部インターフェイス (Ethernet 1/2 など) を内部ルータに接続します。

d) 外部インターフェイス (Ethernet 1/1 など) を外部ルータに接続します。

e) 残りのインターフェイスに他のネットワークを接続します。

ステップ3 エッジ展開用のケーブル配線：

図 5: エッジ展開のケーブル配線



a) 以下の機器のケーブルをレイヤ 2 イーサネットスイッチに接続します。

- 内部インターフェイス (Ethernet 1/2 など)
- Management 1/1 インターフェイス

Management Center に専用のイベントインターフェイスがある場合は、Management 1/2 インターフェイスを別のイベントインターフェイスとして使用できます。詳細については、Management Center の管理およびデバイス設定ガイドを参照してください。

- Secure Firewall Management Center
- 管理コンピュータ

b) 管理コンピュータをコンソールポートに接続します。管理インターフェイスへの SSH を使用しない場合は、コンソールポートを使用して初期設定のために CLI にアクセスする必要があります。

c) 外部インターフェイス (Ethernet 1/1 など) を外部ルータに接続します。

d) 残りのインターフェイスに他のネットワークを接続します。

ファイアウォールの電源投入

システムの電源は、ファイアウォールの背面にあるロッカー電源スイッチによって制御されます。電源スイッチは、ソフト通知スイッチとして実装されています。これにより、システムのグレースフルシャットダウンがサポートされ、システムソフトウェアおよびデータの破損のリスクが軽減されます。



(注) Threat Defense を初めて起動するときは、初期化に約 15 ~ 30 分かかります。

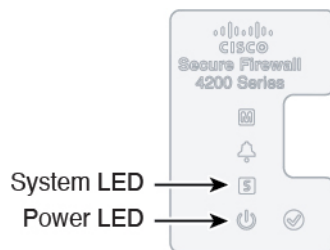
始める前に

ファイアウォールに対して信頼性の高い電力を供給することが重要です（無停電電源装置（UPS）を使用するなど）。最初のシャットダウンを行わないで電力が失われると、重大なファイルシステムの損傷を引き起こす可能性があります。バックグラウンドでは常に多数のプロセスが実行されていて、電力が失われると、システムをグレースフルシャットダウンできません。

手順

- ステップ 1** 電源コードをファイアウォールに接続し、電源コンセントに接続します。
- ステップ 2** シャーシの背面で、電源コードに隣接する標準的なロッカータイプの電源オン/オフ スイッチを使用して電源をオンにします。
- ステップ 3** ファイアウォールの背面にある電源 LED を確認します。緑色に点灯している場合は、ファイアウォールの電源が入っています。

図 6: システムおよび電源 LED



- ステップ 4** ファイアウォールの背面にあるシステム LED を確認します。緑色に点灯している場合は、電源投入診断に合格しています。

(注) スイッチを ON から OFF に切り替えると、システムの電源が最終的に切れるまで数秒かかることがあります。この間は、シャーシの前面パネルの電源 LED が緑に点滅します。電源 LED が完全にオフになるまで電源を切らないでください。

(任意) ソフトウェアの確認と新しいバージョンのインストール

ソフトウェアのバージョンを確認し、必要に応じて別のバージョンをインストールするには、次の手順を実行します。ファイアウォールを設定する前に対象バージョンをインストールすることをお勧めします。別の方法として、稼働後にアップグレードを実行することもできますが、設定を保持するアップグレードでは、この手順を使用するよりも時間がかかる場合があります。

実行するバージョン

ソフトウェア ダウンロード ページのリリース番号の横にある、金色の星が付いている Gold Star リリースを実行することをお勧めします。 <https://www.cisco.com/c/en/us/products/collateral/security/firewalls/bulletin-c25-743178.html> に記載されているリリース戦略も参照してください。たとえば、この速報では、（最新機能を含む）短期的なリリース番号、長期的なリリース番号（より長期間のメンテナンスリリースとパッチ）、または非常に長期的なリリース番号（政府認定を受けるための最長期間のメンテナンスリリースとパッチ）について説明しています。

手順

ステップ 1 コンソール ポートに接続します。詳細については、[Threat Defense および FXOS CLI へのアクセス \(37 ページ\)](#) を参照してください。

admin ユーザとデフォルトパスワードの **Admin123** を使用してログインします。

FXOS CLI に接続します。初めてログインしたとき、パスワードを変更するよう求められます。このパスワードは、SSH の Threat Defense ログインにも使用されます。

(注) パスワードがすでに変更されていて、パスワードがわからない場合は、初期設定へのリセットを実行して、パスワードをデフォルトにリセットする必要があります。[初期設定へのリセット手順](#)については、『[FXOS troubleshooting guide](#)』を参照してください。

例 :

```
firepower login: admin
Password: Admin123
Successful login attempts for user 'admin' : 1

[...]

Hello admin. You must change your password.
Enter new password: *****
Confirm new password: *****
Your password was updated successfully.

[...]

firepower#
```

ステップ 2 FXOS CLI で、実行中のバージョンを表示します。

scope ssa

show app-instance

例 :

```
Firepower# scope ssa
Firepower /ssa # show app-instance

Application Name      Slot ID   Admin State   Operational State   Running Version
Startup Version Cluster Oper State
```

```

-----
ftd          1          Enabled          Online          7.4.0.65
7.4.0.65    Not Applicable

```

ステップ 3 新しいバージョンをインストールする場合は、次の手順を実行します。

- a) 管理インターフェイスに静的 IP アドレスを設定する必要がある場合は、「[CLI を使用した Threat Defense 初期設定の実行の完了 \(11 ページ\)](#)」を参照してください。デフォルトでは、管理インターフェイスは DHCP を使用します。

管理インターフェイスからアクセスできるサーバーから新しいイメージをダウンロードする必要があります。

- b) [FXOS のトラブルシューティング ガイド](#)に記載されている[再イメージ化の手順](#)を実行します。

ファイアウォールが再起動したら、FXOS CLI に再度接続します。

CLI を使用した Threat Defense 初期設定の実行の完了

Threat Defense CLI に接続して初期設定を実行します。これには、セットアップウィザードを使用した管理 IP アドレス、ゲートウェイ、およびその他の基本ネットワーク設定の指定などが含まれます。専用の管理インターフェイスは、独自のネットワーク設定を持つ特別なインターフェイスです。マネージャアクセスに管理インターフェイスを使用しない場合は、代わりに CLI を使用してデータインターフェイスを設定できます。また、Management Center 通信の設定を行います。

Procedure

- ステップ 1** コンソールポートから、または管理インターフェイスへの SSH を使用して、Threat Defense CLI に接続します。デフォルトで DHCP サーバーから IP アドレスが取得されます。ネットワーク設定を変更する場合は、切断されないようにコンソールポートを使用することを推奨します。

コンソールポートは FXOS CLI に接続します。SSH セッションは Threat Defense CLI に直接接続します。

- ステップ 2** ユーザー名 **admin** およびパスワード **Admin123** でログインします。

コンソールポートで FXOS CLI に接続します。初めて FXOS にログインしたときは、パスワードを変更するよう求められます。このパスワードは、SSH の Threat Defense ログインにも使用されます。

Note パスワードがすでに変更されていて、パスワードがわからない場合は、デバイスを再イメージ化してパスワードをデフォルトにリセットする必要があります。再イメージ化の手順については、FXOSのトラブルシューティングガイドを参照してください。

Example:

```
firepower login: admin
Password: Admin123
Successful login attempts for user 'admin' : 1

[...]

Hello admin. You must change your password.
Enter new password: *****
Confirm new password: *****
Your password was updated successfully.

[...]

firepower#
```

ステップ 3 コンソールポートで FXOS に接続した場合は、Threat Defense CLI に接続します。

connect ftd

Example:

```
firepower# connect ftd
>
```

ステップ 4 Threat Defense に初めてログインすると、エンドユーザーライセンス契約（EULA）に同意し、SSH 接続を使用している場合は、管理者パスワードを変更するように求められます。その後、CLI セットアップスクリプトが表示されます。

Note 設定をクリア（たとえば、イメージを再作成することにより）しないかぎり、CLI セットアップウィザードを繰り返すことはできません。ただし、これらの設定すべては、後から CLI で **configure network** コマンドを使用して変更できます。Cisco Secure Firewall Threat Defense コマンドリファレンスを参照してください。

デフォルト値または以前に入力した値がカッコ内に表示されます。以前に入力した値をそのまま使用する場合は、Enter を押します。

次のガイドラインを参照してください。

- [IPv4を設定しますか? (Do you want to configure IPv4?)]、[IPv6を設定しますか? (Do you want to configure IPv6?)]: これらのタイプのアドレスの少なくとも1つに **y** を入力します。
- 管理インターフェイスの **IPv4 デフォルトゲートウェイ** を入力または **管理インターフェイスの IPv6 ゲートウェイ** を入力: 管理ネットワークで Management 1/1 のゲートウェイ IP アドレスを設定します。「ネットワークの導入」の項に示されているエッジ展開の例では、内部インターフェイスは管理ゲートウェイとして機能します。この場合、ゲートウェイ IP

アドレスを目的の内部インターフェイス IP アドレスに設定する必要があります。後で Management Center を使用して内部 IP アドレスを設定する必要があります。data-interfaces 設定は、リモート Management Center 管理にのみ適用されます。

- ネットワーク情報が変更された場合は再接続が必要：SSH で接続しているのに、初期セットアップでその IP アドレスを変更すると、接続が切断されます。新しい IP アドレスとパスワードで再接続してください。コンソール接続は影響を受けません。
- [ファイアウォールモードを設定しますか (Configure firewall mode?)]：初期設定でファイアウォールモードを設定することをお勧めします。初期設定後にファイアウォールモードを変更すると、実行コンフィギュレーションが消去されます。

Example:

```
You must accept the EULA to continue.
Press <ENTER> to display the EULA:
End User License Agreement
[...]

Please enter 'YES' or press <ENTER> to AGREE to the EULA:

System initialization in progress. Please stand by.
You must change the password for 'admin' to continue.
Enter new password: *****
Confirm new password: *****
You must configure the network to continue.
Configure at least one of IPv4 or IPv6 unless managing via data interfaces.
Do you want to configure IPv4? (y/n) [y]:
Do you want to configure IPv6? (y/n) [y]:n
Configure IPv4 via DHCP or manually? (dhcp/manual) [manual]:
Enter an IPv4 address for the management interface [192.168.45.45]: 10.10.10.15
Enter an IPv4 netmask for the management interface [255.255.255.0]: 255.255.255.192
Enter the IPv4 default gateway for the management interface [data-interfaces]: 10.10.10.1
Enter a fully qualified hostname for this system [firepower]: ftd-1.cisco.com
Enter a comma-separated list of DNS servers or 'none'
[208.67.222.222,208.67.220.220,2620:119:35::35]:
Enter a comma-separated list of search domains or 'none' []:cisco.com
If your networking information has changed, you will need to reconnect.
Disabling IPv6 configuration: management0
Setting DNS servers: 208.67.222.222,208.67.220.220,2620:119:35::35
Setting DNS domains:cisco.com
Setting hostname as ftd-1.cisco.com
Setting static IPv4: 10.10.10.15 netmask: 255.255.255.192 gateway: 10.10.10.1 on
management0
Updating routing tables, please wait...
All configurations applied to the system. Took 3 Seconds.
Saving a copy of running network configuration to local disk.
For HTTP Proxy configuration, run 'configure network http-proxy'

DHCP server is already disabled
DHCP Server Disabled
Configure firewall mode? (routed/transparent) [routed]:
Configuring firewall mode ...

Device is in OffBox mode - disabling/removing port 443 from iptables.
Update policy deployment information
- add device configuration
- add network discovery
```

```
- add system policy
```

You can register the sensor to a Firepower Management Center and use the Firepower Management Center to manage it. Note that registering the sensor to a Firepower Management Center disables on-sensor Firepower Services management capabilities.

When registering the sensor to a Firepower Management Center, a unique alphanumeric registration key is always required. In most cases, to register a sensor to a Firepower Management Center, you must provide the hostname or the IP address along with the registration key.

```
'configure manager add [hostname | ip address ] [registration key ]'
```

However, if the sensor and the Firepower Management Center are separated by a NAT device, you must enter a unique NAT ID, along with the unique registration key.

```
'configure manager add DONTRESOLVE [registration key ] [ NAT ID ]'
```

Later, using the web interface on the Firepower Management Center, you must use the same registration key and, if necessary, the same NAT ID when you add this sensor to the Firepower Management Center.

```
>
```

ステップ 5 この Threat Defense を管理する Management Center を特定します。

```
configure manager add {hostname | IPv4_address | IPv6_address | DONTRESOLVE} reg_key [nat_id]
```

- **{hostname | IPv4_address | IPv6_address | DONTRESOLVE}**—Specifies either the FQDN or IP address of the Management Center. Management Center を直接アドレス指定できない場合は、**DONTRESOLVE** を使用します。また、*nat_id* も指定します。双方向の SSL 暗号化通信チャネルを2台のデバイス間に確立するには、少なくとも1台以上のデバイス (Management Center または Threat Defense) に到達可能な IP アドレスが必要です。このコマンドで **DONTRESOLVE** を指定するには、到達可能な IP アドレスまたはホスト名が Threat Defense に必要です。
- **reg_key** : Threat Defense を登録するときに Management Center でも指定する任意のワнтаイム登録キーを指定します。登録キーは37文字以下にする必要があります。有効な文字には、英数字 (A~Z、a~z、0~9)、およびハイフン (-) があります。
- **nat_id** : 一方の側で到達可能な IP アドレスまたはホスト名が指定されていない場合は、Threat Defense を登録するときに Management Center にも指定する任意の一意のワнтаイム文字列を指定します。この文字列は、Management Center を **DONTRESOLVE** に設定した場合に必要です。NAT ID は37文字以下にする必要があります。有効な文字には、英数字 (A~Z、a~z、0~9)、およびハイフン (-) があります。この ID は、Management Center に登録する他のデバイスには使用できません。

Example:

```
> configure manager add MC.example.com 123456  
Manager successfully configured.
```

Management Center が NAT デバイスの背後にある場合は、次の例に示すように、一意の NAT ID とともに登録キーを入力し、ホスト名の代わりに **DONTRESOLVE** を指定します。

Example:

```
> configure manager add DONTRESOLVE regk3y78 natid90
Manager successfully configured.
```

Threat Defense が NAT デバイスの背後にある場合は、次の例に示すように、一意の NAT ID とともに Management Center IP アドレスまたはホスト名を入力します。

Example:

```
> configure manager add 10.70.45.5 regk3y78 natid56
Manager successfully configured.
```

What to do next

Management Center にファイアウォールを登録します。

Management Center へのログイン

Management Center を使用して、Threat Defense を設定および監視します。

始める前に

サポートされているブラウザの詳細については、使用するバージョンのリリースノート (<https://www.cisco.com/go/firepower-notes>) を参照してください。

手順

ステップ 1 サポートされているブラウザを使用して、次の URL を入力します。

`https://fmc_ip_address`

ステップ 2 ユーザー名とパスワードを入力します。

ステップ 3 [ログイン (Log In)] をクリックします。

Management Center のライセンスの取得

すべてのライセンスは、Management Center によって脅威に対する防御に提供されます。次のライセンスを購入できます。

- **Essentials** (必須) Essentials ライセンス。
- **IPS** : セキュリティインテリジェンスと次世代 IPS
- **マルウェア防御** : マルウェア防御

- **URL** : URL フィルタリング
- **Cisco Secure Client** : Secure Client Advantage、Secure Client Premier、または Secure Client VPN のみ
- キャリア (Diameter、GTP/GPRS、M3UA、SCTP)

シスコライセンスの概要については詳しくは、cisco.com/go/licensingguide を参照してください。

始める前に

- **Smart Software Manager** にマスターアカウントを持ちます。
まだアカウントをお持ちでない場合は、リンクをクリックして[新しいアカウントを設定](#)してください。Smart Software Manager では、組織のマスター アカウントを作成できます。
- (輸出コンプライアンスフラグを使用して有効化される) 機能を使用するには、ご使用のスマート ソフトウェア ライセンシング アカウントで強力な暗号化 (3DES/AES) ライセンスを使用できる必要があります。

手順

ステップ 1 お使いのスマート ライセンシング アカウントに、必要なライセンスが含まれていることを確認してください。

ライセンスは、シスコまたは販売代理店からデバイスを購入した際に、スマートソフトウェア ライセンシングアカウントにリンクされています。ただし、主導でライセンスを追加する必要がある場合は、[Cisco Commerce Workspace](#) で [製品とソリューションの検索 (Find Products and Solutions)] 検索フィールドを使用します。次のライセンス PID を検索します。

図 7: ライセンス検索

(注) PID が見つからない場合は、注文に手動で PID を追加できます。

- Essentials ライセンス :
 - L-FPR4215-BSE=
 - L-FPR4225-BSE=
 - L-FPR4245-BSE=
- IPS、マルウェア防御、および URL ライセンスの組み合わせ :

- L-FPR4215T-TMC=
- L-FPR4225T-TMC=
- L-FPR4245T-TMC=

上記の PID のいずれかを注文に追加すると、次のいずれかの PID に対応する期間ベースのサブスクリプションを選択できます。

- L-FPR4215T-TMC-1Y
 - L-FPR4215T-TMC-3Y
 - L-FPR4215T-TMC-5Y
 - L-FPR4225T-TMC-1Y
 - L-FPR4225T-TMC-3Y
 - L-FPR4225T-TMC-5Y
 - L-FPR4245T-TMC-1Y
 - L-FPR4245T-TMC-3Y
 - L-FPR4245T-TMC-5Y
- キャリアライセンス :
 - L-FPR4200-FTD-CAR=
 - Cisco Secure Client : 『[Cisco Secure Client 発注ガイド](#)』を参照してください。

ステップ 2 まだ設定していない場合は、スマートライセンスサーバーに Management Center を登録します。

登録を行うには、Smart Software Manager で登録トークンを生成する必要があります。詳細な手順については、[Cisco Secure Firewall Management Center アドミニストレーションガイド](#)を参照してください。

Management Center への Threat Defense の登録

デバイスの IP アドレスかホスト名を使用して、手動で Threat Defense を Management Center に登録します。

始める前に

- Threat Defense の最初の設定で設定した次の情報を収集します。
 - Threat Defense の管理 IP アドレスまたはホスト名、および NAT ID

- Management Center の登録キー

手順

- ステップ 1** Management Center で、[デバイス (Devices)]>[デバイス管理 (Device Management)] の順に選択します。
- ステップ 2** [追加 (Add)] ドロップダウンリストから、[デバイスの追加 (Add Device)] を選択します。
登録キー方式がデフォルトで選択されています。

図 8: 登録キーを使用したデバイスの追加

Add Device

Select the Provisioning Method:

Registration Key Serial Number

CDO Managed Device

Host:†

10.89.5.40

Display Name:

10.89.5.40

Registration Key:*

....

Group:

None

Access Control Policy:*

inside-outside

Smart Licensing

Note: All virtual Firewall Threat Defense devices require a performance tier license. Make sure your Smart Licensing account contains the available licenses you need. It's important to choose the tier that matches the license you have in your account. Click [here](#) for information about the Firewall Threat Defense performance-tiered licensing. Until you choose a tier, your Firewall Threat Defense virtual defaults to the FTDv50 selection.

Performance Tier (only for Firewall Threat Defense virtual 7.0 and above):

Select a recommended Tier

Carrier

Malware Defense

IPS

URL

Advanced

Unique NAT ID:†

test

Transfer Packets

Cancel Register

次のパラメータを設定します。

- [ホスト (Host)] : 追加する Threat Defense の IP アドレスかホスト名を入力します。Threat Defense の最初の設定で Management Center の IP アドレスと NAT ID の両方を指定した場合は、このフィールドを空のままにしておくことができます。

(注) HA 環境では、両方の Management Center が NAT の背後にある場合、プライマリ Management Center のホスト IP または名前なしで Threat Defense を登録できます。ただし、Threat Defense をセカンダリ Management Center に登録するには、Threat Defense の IP アドレスかホスト名を指定する必要があります。

- [表示名 (Display Name)] フィールドに、Management Center に表示する Threat Defense の名前を入力します。
- [登録キー (Registration key)] : Threat Defense の最初の設定で指定したものと同一登録キーを入力します。
- [ドメイン (Domain)] : マルチドメイン環境を使用している場合は、デバイスをリーフドメインに割り当てます。
- [グループ (Group)] : グループを使用している場合は、デバイスグループに割り当てます。
- [アクセスコントロールポリシー (Access Control Policy)] : 初期ポリシーを選択します。使用する必要があることがわかっているカスタマイズ済みのポリシーがすでにある場合を除いて、[新しいポリシーの作成 (Create new policy)] を選択し、[すべてのトラフィックをブロック (Block all traffic)] を選択します。後でこれを変更してトラフィックを許可することができます。「[内部から外部へのトラフィックの許可 \(34 ページ\)](#)」を参照してください。

図 9: New Policy

The screenshot shows the 'New Policy' configuration interface. It includes the following elements:

- Name:** A text input field containing 'ftd-ac-policy'.
- Description:** An empty text input field.
- Select Base Policy:** A dropdown menu currently set to 'None'.
- Default Action:** Three radio button options:
 - Block all traffic (highlighted with a red box)
 - Intrusion Prevention
 - Network Discovery
- Buttons:** 'Cancel' and 'Save' buttons located at the bottom right of the form area.

- **スマートライセンス** : 展開する機能に必要なスマートライセンスを割り当てます。注 : デバイスを追加した後、[システム (System)] > [ライセンス (Licenses)] > [スマートライセンス (Smart Licenses)] ページからセキュアクライアントリモートアクセス VPN のライセンスを適用できます。

- [一意のNAT ID (Unique NAT ID)] : Threat Defense の最初の設定で指定した NAT ID を指定します。
- [パケットの転送 (Transfer Packets)] : デバイスから Management Center へのパケット転送を許可します。このオプションを有効にして IPS や Snort などのイベントがトリガーされた場合は、デバイスが検査用としてイベントメタデータ情報とパケットデータを Management Center に送信します。このオプションを無効にした場合は、イベント情報だけが Management Center に送信され、パケットデータは送信されません。

ステップ 3 [登録 (Register)] をクリックし、正常に登録されたことを確認します。

登録が成功すると、デバイスがリストに追加されます。失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。Threat Defense が登録に失敗した場合は、次の項目を確認してください。

- ping : Threat Defense CLI にアクセスし、次のコマンドを使用して Management Center IP アドレスへの ping を実行します。

ping system ip_address

ping が成功しない場合は、**show network** コマンドを使用してネットワーク設定を確認します。Threat Defense 管理 IP アドレスを変更するには、**configure network {ipv4 | ipv6} manual** コマンドを使用します。

- 登録キー、NAT ID、および Management Center IP アドレス : 両方のデバイスで同じ登録キーを使用していることを確認し、使用している場合は NAT ID を使用していることを確認します。**configure manager add** コマンドを使用して、Management Center で登録キーと NAT ID を設定することができます。

トラブルシューティングの詳細については、<https://cisco.com/go/fmc-reg-error> を参照してください。

基本的なセキュリティポリシーの設定

ここでは、次の設定を使用して基本的なセキュリティポリシーを設定する方法について説明します。

- 内部インターフェイスと外部インターフェイス : 内部インターフェイスにスタティック IP アドレスを割り当て、外部インターフェイスに DHCP を使用します。
- DHCP サーバー : クライアントの内部インターフェイスで DHCP サーバーを使用します。
- デフォルトルート : 外部インターフェイスを介してデフォルトルートを追加します。
- NAT : 外部インターフェイスでインターフェイス PAT を使用します。
- アクセスコントロール : 内部から外部へのトラフィックを許可します。

基本的なセキュリティポリシーを設定するには、次のタスクを実行します。

①	インターフェイスの設定 (22 ページ)。
②	DHCP サーバーの設定 (27 ページ)。
③	デフォルトルートの追加 (29 ページ)。
④	NAT の設定 (31 ページ)。
⑤	内部から外部へのトラフィックの許可 (34 ページ)。
⑥	設定の展開 (35 ページ)。

インターフェイスの設定

Threat Defense インターフェイスを有効にし、それらをセキュリティゾーンに割り当てて IP アドレスを設定します。ブレイクアウトポートも設定します。通常は、システムで意味のあるトラフィックを通過させるように、少なくとも2つのインターフェイスを設定する必要があります。通常は、アップストリームルータまたはインターネットに面した外部インターフェイスと、組織のネットワークの1つ以上の内部インターフェイスを使用します。これらのインターフェイスの一部は、Web サーバーなどのパブリックアクセスが可能なアセットを配置する「緩衝地帯」(DMZ) となる場合があります。

一般的なエッジルーティングの状況は、内部インターフェイスでスタティックアドレスを定義すると同時に、ISP から DHCP を介して外部インターフェイスアドレスを取得することです。

次の例では、DHCP によるスタティックアドレスとルーテッドモードの外部インターフェイスを使用して、ルーテッドモードの内部インターフェイスを設定します。

手順

ステップ 1 [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] の順に選択し、ファイアウォールの をクリックします。

ステップ 2 [インターフェイス (Interfaces)] をクリックします。

図 10: [インターフェイス (Interfaces)]

Interface	Logical Name	Type	Security Zones	MAC Address (Active/Standby)	IP Address	Path Monitoring	Virtual Router	
● Management0/0	management	Physical				Disabled	Global	🔍 ↕
🔍 GigabitEthernet0/0		Physical				Disabled		✎
🔍 GigabitEthernet0/1		Physical				Disabled		✎
🔍 GigabitEthernet0/2		Physical				Disabled		✎
🔍 GigabitEthernet0/3		Physical				Disabled		✎
🔍 GigabitEthernet0/4		Physical				Disabled		✎
🔍 GigabitEthernet0/5		Physical				Disabled		✎
🔍 GigabitEthernet0/6		Physical				Disabled		✎
🔍 GigabitEthernet0/7		Physical				Disabled		✎

ステップ 3 40 Gb 以上のインターフェイスからブレイクアウトポートを作成するには、インターフェイスの [ブレイク (Break)] アイコンをクリックします。

設定でフルインターフェイスをすでに使用している場合は、ブレイクアウトを続行する前に設定を削除する必要があります。

ステップ 4 内部に使用するインターフェイスの をクリックします。

[全般 (General)] タブが表示されます。

図 11 : [General] タブ

Edit Physical Interface

General IPv4 IPv6 Path Monitoring

Name:

Enabled
 Management Only

Description:

Mode:

Security Zone:

Interface ID:

MTU:

(64 - 9000)

Priority:
 (0 - 65535)

Propagate Security Group Tag:

NVE Only:

- a) 48 文字までの [名前 (Name)] を入力します。
 たとえば、インターフェイスに **inside** という名前を付けます。
- b) [有効 (Enabled)] チェックボックスをオンにします。
- c) [モード (Mode)] は [なし (None)] に設定したままにします。
- d) [セキュリティゾーン (SecurityZone)] ドロップダウンリストから既存の内部セキュリティゾーンを選択するか、[新規 (New)] をクリックして新しいセキュリティゾーンを追加します。

たとえば、**inside_zone** という名前のゾーンを追加します。各インターフェイスは、セキュリティゾーンおよびインターフェイスグループに割り当てる必要があります。インターフェイスは、1 つのセキュリティゾーンにのみ属することも、複数のインターフェイスグループに属することもできます。ゾーンまたはグループに基づいてセキュリティポリシーを適用します。たとえば、内部インターフェイスを内部ゾーンに割り当て、外部インターフェイスを外部ゾーンに割り当てることができます。この場合、トラフィックが内部から外部に移動できるようにアクセスコントロールポリシーを設定することはできませんが、外部から内部に向けては設定できません。ほとんどのポリシーはセキュリティゾーンのみサポートしています。NAT ポリシー、プレフィルタ ポリシー、および QoS ポリシーで、ゾーンまたはインターフェイスグループを使用できます。

e) [IPv4] タブ、[IPv6] タブ、または両方のタブをクリックします。

- [IPv4] : ドロップダウンリストから [スタティック IP を使用する (Use Static IP)] を選択し、IP アドレスとサブネットマスクをスラッシュ表記で入力します。

たとえば、**192.168.1.1/24** などと入力します。

図 12: [IPv4] タブ

Edit Physical Interface

General IPv4 IPv6 Path Monitoring

IP Type:
Use Static IP

IP Address:
192.168.1.1/24
eg. 192.0.2.1/255.255.255.128 or 192.0.2.1/25

- [IPv6] : ステートレス自動設定の場合は [自動設定 (Autoconfiguration)] チェックボックスをオンにします。

図 13: [IPv6] タブ

Edit Physical Interface

General IPv4 IPv6 Path Monitoring Hardware Configu

Basic Address Prefixes Settings DHCP

Enable IPV6:

Enforce EUI 64:

Link-Local address:

Autoconfiguration:

Obtain Default Route:

f) [OK] をクリックします。

ステップ 5 「外部」に使用するインターフェイスをクリックします。

[全般 (General)] タブが表示されます。

図 14: [General] タブ

Edit Physical Interface

General IPv4 IPv6 Path Monitoring Hardware

Name:

Enabled
 Management Only

Description:

Mode:

Security Zone:

Interface ID:

MTU:

(64 - 9000)

Priority:
 (0 - 65535)

Propagate Security Group Tag:

NVE Only:

- a) 48 文字までの [名前 (Name)] を入力します。
 たとえば、インターフェイスに「outside」という名前を付けます。
- b) [有効 (Enabled)] チェックボックスをオンにします。
- c) [モード (Mode)] は [なし (None)] に設定したままにします。
- d) [セキュリティゾーン (Security Zone)] ドロップダウンリストから既存の外部セキュリティゾーンを選択するか、[新規 (New)] をクリックして新しいセキュリティゾーンを追加します。
 たとえば、「outside_zone」という名前のゾーンを追加します。
- e) [IPv4] タブ、[IPv6] タブ、または両方のタブをクリックします。
 - [IPv4] : [DHCPの使用 (Use DHCP)] を選択し、次のオプションのパラメータを設定します。
 - [DHCP を使用してデフォルトルートを取得 (Obtain default route using DHCP)] : DHCP サーバーからデフォルト ルートを取得します。

- [DHCPルートメトリック (DHCP route metric)] : アドミニストレーティブディスタンスを学習したルートに割り当てます (1 ~ 255)。学習したルートのデフォルトのアドミニストレーティブディスタンスは1です。

図 15: [IPv4] タブ

Edit Physical Interface

General IPv4 IPv6 Path Mc

IP Type:
Use DHCP

Obtain default route using DHCP:

DHCP route metric:
1
(1 - 255)

- [IPv6] : ステートレス自動設定の場合は [自動設定 (Autoconfiguration)] チェックボックスをオンにします。

図 16: [IPv6] タブ

Edit Physical Interface

General IPv4 IPv6 Path Monitoring Hardware Configu

Basic Address Prefixes Settings DHCP

Enable IPV6:

Enforce EUI 64:

Link-Local address:

Autoconfiguration:

Obtain Default Route:

f) [OK] をクリックします。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

DHCP サーバーの設定

クライアントで DHCP を使用して脅威に対する防御から IP アドレスを取得するようにする場合は、DHCP サーバーを有効にします。

手順

ステップ1 [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] を選択し、デバイスをクリックします。

ステップ2 [DHCP] > [DHCPサーバー (DHCP Server)] を選択します。

図 17: DHCP サーバー

The screenshot shows the DHCP configuration interface. On the left, there is a sidebar with options: DHCP Server, DHCP Relay, and DDNS. The main area is titled 'DHCP' and contains several configuration fields: Ping Timeout (50), Lease Length (3600), Auto-Configuration (unchecked), Interface (dropdown), and Override Auto Configured Settings (Domain Name, Primary/Secondary DNS and WINS Servers). At the bottom, there are tabs for 'Server' and 'Advanced', and a table with columns for Interface, Address Pool, and Enable DHCP Server. A '+ Add' button is highlighted in a red box in the bottom right corner.

ステップ3 [サーバー (Server)] ページで、[追加 (Add)] をクリックして、次のオプションを設定します。

図 18: サーバーの追加 (Add Server)

The 'Add Server' dialog box contains the following fields: Interface* (dropdown menu with 'inside' selected), Address Pool* (text input with '10.9.7.9-10.9.7.25' and '(2.2.2.10-2.2.2.20)' below it), and a checked checkbox for 'Enable DHCP Server'. At the bottom, there are 'Cancel' and 'OK' buttons.

- [インターフェイス (Interface)] : ドロップダウンリストからインターフェイスを選択します。
- [アドレスプール (Address Pool)] : DHCP サーバーが使用する IP アドレスの最下位から最上位の間の範囲を設定します。IP アドレスの範囲は、選択したインターフェイスと同じ

サブネット上に存在する必要があり、インターフェイス自身の IP アドレスを含めることはできません。

- [DHCPサーバーを有効にする (Enable DHCP Server)]: 選択したインターフェイスの DHCP サーバーを有効にします。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

デフォルトルートの追加

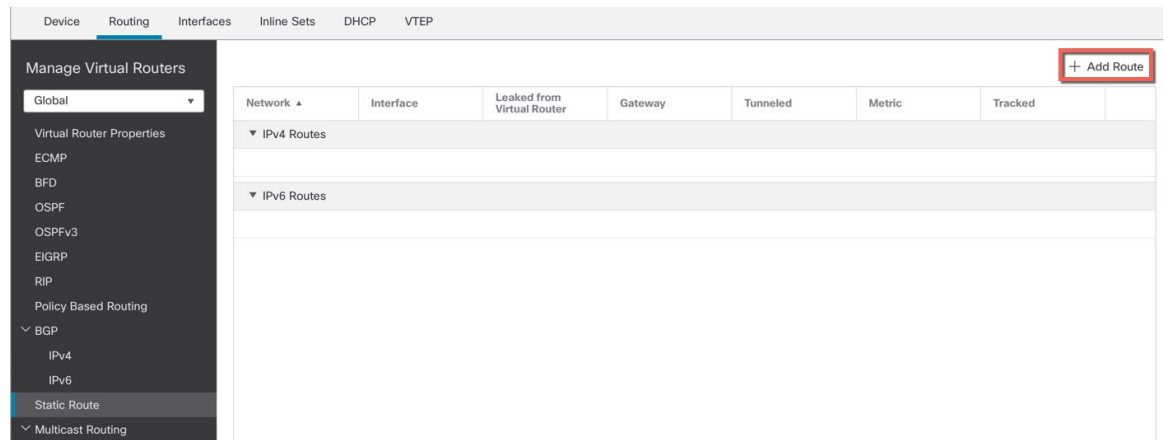
デフォルトルートは通常、外部インターフェイスから到達可能なアップストリームルータを指し示します。外部インターフェイスに DHCP を使用する場合は、デバイスがすでにデフォルトルートを受信している可能性があります。手動でルートを追加する必要がある場合は、次の手順を実行します。DHCP サーバーからデフォルトルートを受信した場合は、[デバイス (Devices)]>[デバイス管理 (Device Management)]>[ルーティング (Routing)]>[スタティックルート (Static Route)]ページの [IPv4ルート (IPv4 Routes)]または [IPv6ルート (IPv6 Routes)]テーブルに表示されます。

手順

ステップ 1 [デバイス (Devices)]>[デバイス管理 (Device Management)]を選択し、デバイスをクリックします。

ステップ 2 [ルーティング (Routing)]>[静的ルート (Static Routes)]を選択します。

図 19: Static Route



ステップ 3 [ルートを追加 (Add route)] をクリックして、次のように設定します。

図 20: 静的ルート追加の設定

Add Static Route Configuration

Type: IPv4 IPv6

Interface*
outside

(Interface starting with this icon signifies it is available for route leak)

Available Network +

Search

any-ipv4

IPv4-Benchmark-Tests

IPv4-Link-Local

IPv4-Multicast

IPv4-Private-10.0.0.0-8

IPv4-Private-172.16.0.0-12

Add

Selected Network

any-ipv4

Gateway*
default-gateway +

Metric:
1

(1 - 254)

Tunneled: (Used only for default Route)

Route Tracking:
+

Cancel OK

- [タイプ (Type)] : 追加するスタティックルートのタイプに応じて、[IPv4] または [IPv6] オプションボタンをクリックします。
- [インターフェイス (Interface)] : 出力インターフェイスを選択します。通常は外部インターフェイスです。
- [使用可能なネットワーク (Available Network)] : IPv4 デフォルトルートの場合は [ipv4] を選択し、IPv6 デフォルトルートの場合は [any] を選択し、[追加 (Add)] をクリックして [選択したネットワーク (Selected Network)] リストに移動させます。
- [ゲートウェイ (Gateway)] または [IPv6ゲートウェイ (IPv6 Gateway)] : このルートのネクストホップであるゲートウェイルータを入力または選択します。IPアドレスまたはネットワーク/ホストオブジェクトを指定できます。
- [メトリック (Metric)] : 宛先ネットワークへのホップの数を入力します。有効値の範囲は 1 ~ 255 で、デフォルト値は 1 です。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

ルートがスタティックルートテーブルに追加されます。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

NAT の設定

一般的な NAT ルールでは、内部アドレスを外部インターフェイスの IP アドレスのポートに変換します。このタイプの NAT ルールのことをインターフェイス ポート アドレス変換 (PAT) と呼びます。

手順

ステップ 1 [デバイス (Devices)]>[NAT] をクリックし、[新しいポリシー (New Policy)]>[Threat Defense NAT] をクリックします。

ステップ 2 ポリシーに名前を付け、ポリシーを使用するデバイスを選択し、[保存 (Save)] をクリックします。

図 21 : New Policy

New Policy

Name:
interface_PAT

Description:

Targeted Devices

Select devices to which you want to apply this policy.

Available Devices

Selected Devices

Search by name or value

10.10.0.6
10.10.0.7

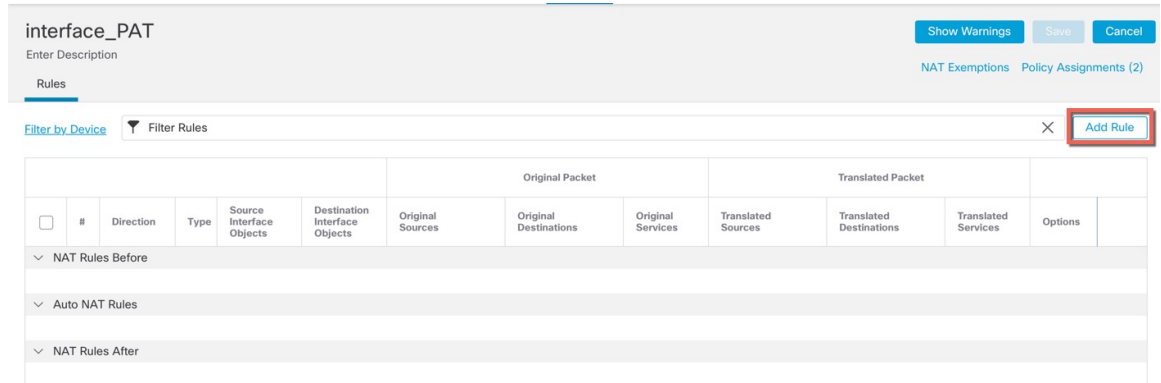
Add to Policy

10.10.0.6
10.10.0.7

Cancel Save

ポリシーが Management Center に追加されます。引き続き、ポリシーにルールを追加する必要があります。

図 22: NAT ポリシー

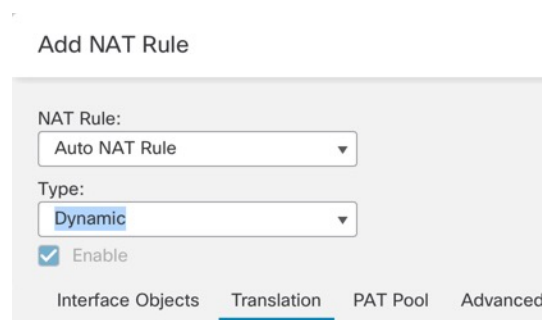


ステップ 3 [ルールの追加 (Add Rule)] をクリックします。

[NATルールの追加 (Add NAT Rule)] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 基本ルールのオプションを設定します。

図 23: 基本ルールのオプション



- [NATルール (NAT Rule)] : [自動NATルール (Auto NAT Rule)] を選択します。
- [タイプ (Type)] : [ダイナミック (Dynamic)] を選択します。

ステップ 5 [インターフェイスオブジェクト (Interface objects)] ページで、[使用可能なインターフェイスオブジェクト (Available Interface Objects)] 領域から [宛先インターフェイスオブジェクト (Destination Interface Objects)] 領域に外部ゾーンを追加します。

図 24: インターフェイス オブジェクト

The screenshot shows the 'Add NAT Rule' configuration page. The 'NAT Rule' is set to 'Auto NAT Rule' and the 'Type' is 'Dynamic'. The 'Enable' checkbox is checked. The 'Interface Objects' tab is active. Under 'Available Interface Objects', 'outside_zone' is selected (1) and 'Add to Destination' is clicked (2). 'outside_zone' is also added to 'Destination Interface Objects' (3).

ステップ 6 [変換 (Translation)] ページで、次のオプションを設定します。

図 25: トランスレーション (Translation)

The screenshot shows the 'Add NAT Rule' configuration page, 'Translation' tab. The 'Original Source' is set to 'all-ipv4' and the 'Translated Source' is set to 'Destination Interface IP'. A note indicates that the values selected for Destination Interface Objects in the 'Interface Objects' tab will be used.

- [元の送信元 (Original Source)]: をクリックして、すべての IPv4 トラフィック (0.0.0.0/0) のネットワークオブジェクトを追加します。

図 26: 新しいネットワークオブジェクト

New Network Object

Name
all-ipv4

Description

Network
 Host Range Network FQDN

0.0.0.0/0

Allow Overrides

Cancel Save

(注) 自動 NAT ルールはオブジェクト定義の一部として NAT を追加するため、システム定義の **any-ipv4** オブジェクトを使用することはできません。また、システム定義のオブジェクトを編集することはできません。

- [変換済みの送信元 (Translated Source)] : [宛先インターフェイス IP (Destination Interface IP)] を選択します。

ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックしてルールを追加します。

ルールが [ルール (Rules)] テーブルに保存されます。

ステップ 8 NAT ページで [保存 (Save)] をクリックして変更を保存します。

内部から外部へのトラフィックの許可

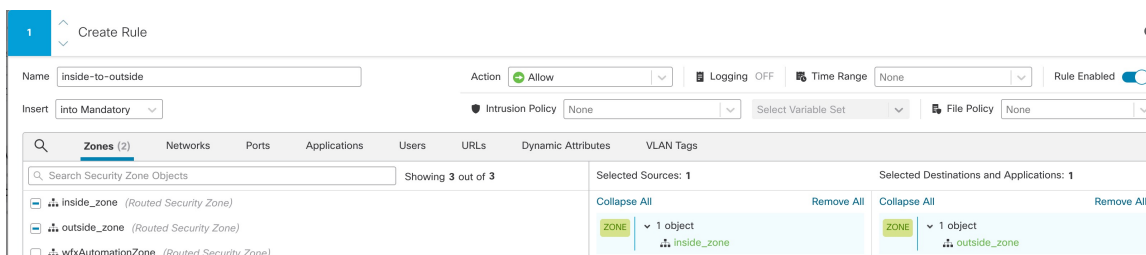
脅威に対する防御 を登録したときに、基本の [すべてのトラフィックをブロック (Block all traffic)] アクセス コントロール ポリシーを作成した場合は、デバイスを通るトラフィックを許可するためにポリシーにルールを追加する必要があります。次の手順では、内部ゾーンから外部ゾーンへのトラフィックを許可するルールを追加します。他にゾーンがある場合は、適切なネットワークへのトラフィックを許可するルールを追加してください。

手順

ステップ 1 [ポリシー (Policy)] > [アクセスポリシー (Access Policy)] > [アクセスポリシー (Access Policy)] を選択し、脅威に対する防御 に割り当てられているアクセス コントロール ポリシーの をクリックします。

ステップ2 [ルールを追加 (Add Rule)] をクリックし、次のパラメータを設定します。

図 27: [ルールを追加 (Add Rule)]



- [名前 (Name)] : このルールに名前を付けます (たとえば、**inside-to-outside**) 。
- [選択した送信元 (Selected Sources)] : [ゾーン (Zones)] から内部ゾーンを選択し、[送信元ゾーンを追加 (Add Source Zone)] をクリックします。
- [選択した宛先とアプリケーション (Selected Destinations and Applications)] : [ゾーン (Zones)] から外部ゾーンを選択し、[宛先ゾーンを追加 (Add Destination Zone)] をクリックします。

他の設定はそのままにしておきます。

ステップ3 [Apply] をクリックします。

ルールが [ルール (Rules)] テーブルに追加されます。

ステップ4 [保存 (Save)] をクリックします。

設定の展開

設定の変更を脅威に対する防御に展開します。変更を展開するまでは、デバイス上でどの変更もアクティブになりません。

手順

ステップ1 右上の [展開 (Deploy)] をクリックします。

図 28: [展開 (Deploy)]



ステップ2 [すべて展開 (Deploy All)] をクリックしてすべてのデバイスに展開するか、[高度な展開 (Advanced Deploy)] をクリックして選択したデバイスに展開します。

図 29: すべて展開

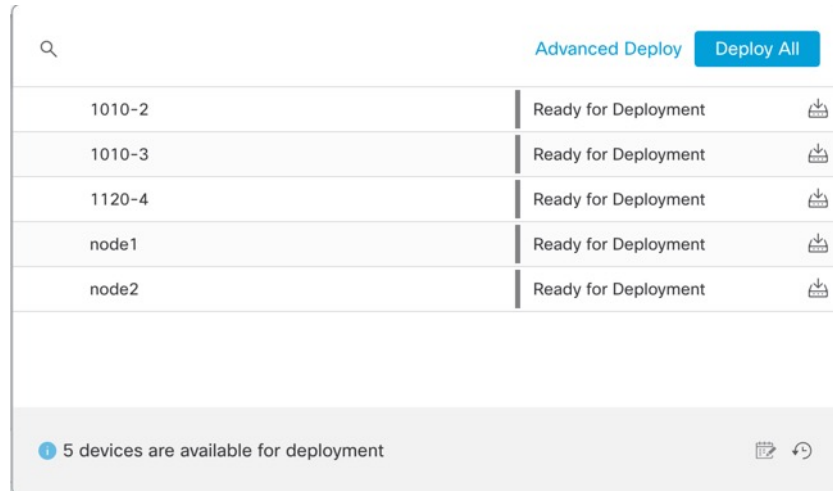


図 30: 高度な展開

1 device selected

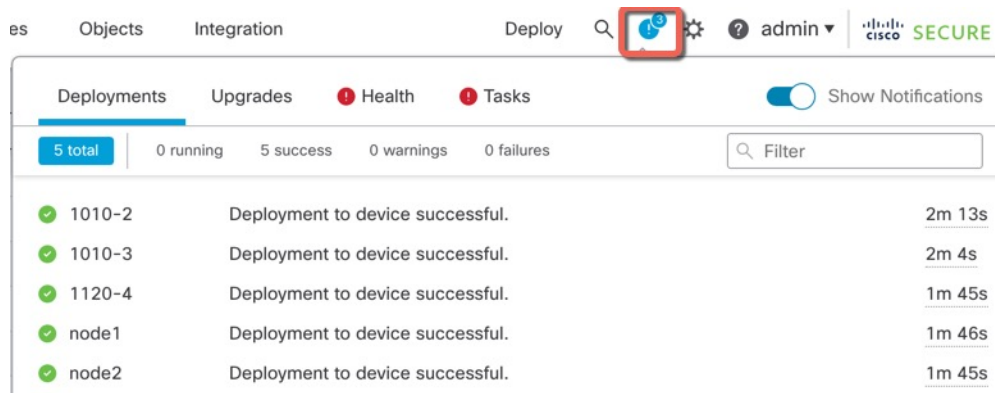
Search using device name, user name, type, group or status

Deploy time: Estimate Deploy

Device	Modified by	Inspect Interruption	Type	Group	Last Deploy Time	Preview	Status
<input checked="" type="checkbox"/> node1	System		FTD		May 23, 2022 6:49 PM	📄	Ready for Deployment
<input type="checkbox"/> 1010-2	admin, System		FTD		May 23, 2022 7:09 PM	📄	Ready for Deployment
<input type="checkbox"/> node2	System		FTD		May 23, 2022 6:49 PM	📄	Ready for Deployment
<input type="checkbox"/> 1010-3	System		FTD		May 23, 2022 6:49 PM	📄	Ready for Deployment
<input type="checkbox"/> 1120-4	System		FTD		May 23, 2022 6:49 PM	📄	Ready for Deployment

ステップ 3 展開が成功したことを確認します。展開のステータスを表示するには、メニューバーの [展開 (Deploy)] ボタンの右側にあるアイコンをクリックします。

図 31: 展開ステータス



Threat Defense および FXOS CLI へのアクセス

コマンドラインインターフェイス (CLI) を使用してシステムのセットアップを行い、基本的なシステムのトラブルシューティングを行います。CLIセッションからポリシーを設定することはできません。CLIには、コンソールポートに接続してアクセスできます。

トラブルシューティングのためにも FXOS CLI にアクセスできます。



- (注) または、Threat Defense デバイスの管理インターフェイスに SSH で接続できます。コンソールセッションとは異なり、SSH セッションはデフォルトで Threat Defense CLI になり、**connect fxos** コマンドを使用して FXOS CLI に接続できます。SSH 接続用のインターフェイスを開いている場合、後でデータインターフェイス上のアドレスに接続できます。データインターフェイスへの SSH アクセスはデフォルトで無効になっています。この手順では、デフォルトで FXOS CLI となるコンソールポートアクセスについて説明します。

手順

ステップ 1 CLI にログインするには、管理コンピュータをコンソールポートに接続します。デフォルトでは Cisco Secure Firewall 4200 にコンソールケーブルが付属していないため、サードパーティの USB-to-RJ-45 シリアルケーブルなどを購入する必要があります。ご使用のオペレーティングシステムに必要な USB シリアル ドライバを必ずインストールしてください。コンソールポートはデフォルトで FXOS CLI になります。次のシリアル設定を使用します。

- 9600 ボー
- 8 データ ビット
- パリティなし
- 1 ストップ ビット

FXOS CLI に接続します。ユーザー名 **admin** と、初期セットアップ時に設定したパスワードを使用して CLI にログインします (デフォルトは **Admin123**)。

例 :

```
firepower login: admin
Password:
Last login: Thu May 16 14:01:03 UTC 2019 on ttyS0
Successful login attempts for user 'admin' : 1

firepower#
```

ステップ 2 Threat Defense CLI にアクセスします。

connect ftd

例：

```
firepower# connect ftd
>
```

ログイン後に、CLI で使用可能なコマンドの情報を確認するには、**help** または **?** を入力します。使用方法については、『Cisco Secure Firewall Threat Defense コマンドリファレンス』を参照してください。

ステップ 3 Threat Defense CLI を終了するには、**exit** または **logout** コマンドを入力します。

このコマンドにより、FXOS CLI プロンプトに戻ります。FXOS CLI で使用可能なコマンドについては、**?** を入力してください。

例：

```
> exit
firepower#
```

ファイアウォールの電源の切断

システムを適切にシャットダウンすることが重要です。単純に電源プラグを抜いたり、電源スイッチを押したりすると、重大なファイルシステムの損傷を引き起こすことがあります。バックグラウンドでは常に多数のプロセスが実行されており、電源プラグを抜いたり、電源を切断したりすると、ファイアウォールシステムをグレースフルシャットダウンできないことを覚えておいてください。

Management Center のデバイス管理ページを使用してデバイスの電源を切断するか、FXOS CLI を使用できます。

Management Center を使用したファイアウォールの電源の切断

システムを適切にシャットダウンすることが重要です。単純に電源プラグを抜いたり、電源スイッチを押したりすると、重大なファイルシステムの損傷を引き起こすことがあります。バックグラウンドでは常に多数のプロセスが実行されていて、電源プラグを抜いたり、電源を切断したりすると、ファイアウォールをグレースフルシャットダウンできないことを覚えておいてください。

Management Center を使用してシステムを適切にシャットダウンできます。

手順

ステップ 1 [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] を選択します。

ステップ 2 再起動するデバイスの横にある [編集 (Edit)] (✎) をクリックします。

- ステップ3** [デバイス (Device)] タブをクリックします。
- ステップ4** [システム (System)] セクションで [デバイスのシャットダウン (Shut Down Device)] (✕) をクリックします。
- ステップ5** プロンプトが表示されたら、デバイスのシャットダウンを確認します。
- ステップ6** コンソールからファイアウォールに接続している場合は、ファイアウォールがシャットダウンするときにシステムプロンプトをモニターします。次のプロンプトが表示されます。

```
System is stopped.
It is safe to power off now.
```

```
Do you want to reboot instead? [y/N]
```

コンソールから接続していない場合は、約3分間待ってシステムがシャットダウンしたことを確認します。

- ステップ7** 必要に応じて電源スイッチをオフにし、電源プラグを抜いてシャーシから物理的に電源を取り外すことができます。

CLI におけるファイアウォールの電源の切断

FXOS CLI を使用すると、システムを安全にシャットダウンしてデバイスの電源を切断できます。CLI には、コンソールポートに接続してアクセスします。[Threat Defense および FXOS CLI へのアクセス \(37 ページ\)](#) を参照してください。

手順

- ステップ1** FXOS CLI で local-mgmt に接続します。

```
firepower # connect local-mgmt
```

- ステップ2** **shutdown** コマンドを発行します。

```
firepower(local-mgmt) # shutdown
```

例 :

```
firepower(local-mgmt)# shutdown
This command will shutdown the system. Continue?
Please enter 'YES' or 'NO': yes
INIT: Stopping Cisco Threat Defense.....ok
```

- ステップ3** ファイアウォールのシャットダウン時にシステムプロンプトをモニターします。次のプロンプトが表示されます。

```
System is stopped.
It is safe to power off now.
Do you want to reboot instead? [y/N]
```

ステップ 4 必要に応じて電源スイッチをオフにし、電源プラグを抜いてシャーシから物理的に電源を取り外すことができます。

次のステップ

Threat Defense の設定を続行するには、「[Cisco Firepower ドキュメント一覧](#)」にあるお使いのソフトウェアバージョンのマニュアルを参照してください。

Management Center の使用に関する情報については、「[Firepower Management Center コンフィギュレーションガイド](#)」を参照してください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。